

ショートコメント vol.213 (2021年7月28日)

テーマ：ワクチン効果に対する仄かな期待 (7/28 update)
 ～重症者数が徐々に増加。今後の推移が注目される～

●直近の感染状況について

7/12、20 付のショートコメントにおいて、大阪の新規感染者数、重症者数の推移につき、ワクチン効果が垣間見える状況を指摘した。

それからさらに8日が経過したが、改めて直近の数値をみてみたい。まず大阪の感染状況については、徐々に感染者が増え、1日当たり300～400人という状況が続いた後、昨日は一気に700人を超えた。人口10万人あたりの感染数(7日間合計)でも36.3人と、ステージ4(25人以上)の基準をすでに超えている(図表1)。

いわゆるデルタ型変異株の感染が大阪でも拡大しており、今後はさらなる感染者数の増加が懸念される。東京では千人超の感染が状態化しているが、大阪もいつそうなるとも限らない。

そういった中、年齢層別の感染状況については、20～30代と60代の乖離が依然として続いている(図表2)。直近でも60代以上の感染はほとんど増えておらず、20～30代との格差は広がり続けている。ここに至っては、高齢者の感染の少なさについては、ワクチン効果による影響も考えられよう。

●新規感染者数と重症者数の動き

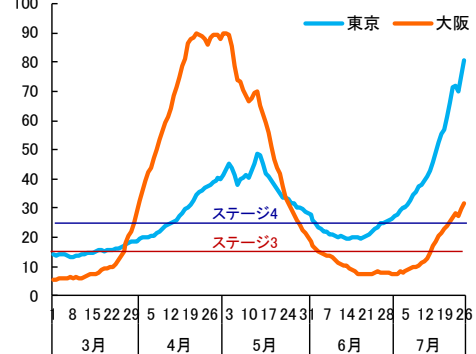
一方、新規感染者数と重症者数の乖離についてはどうか。

7/20 付のショートコメントでは、新規感染者数が増える中、重症者数は抑えられている状況が確認されたが、ここへきて重症者数の増加が始まっている(図表3)。

過去のトレンドをみると、両者は一定のタイムラグの下で連動してきた。感染者数の増加が始まった後、少し遅れて重症者数も増えるというサイクルである。前回の感染第4波では、タイムラグが約10日であったが、今回は約20日間という形になっている。

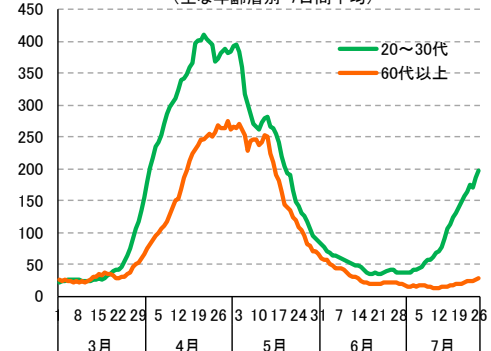
60代以上の感染者数の増加が抑えられている中、重症者数にも同様の動きが期待されたが、すでに増加局面に入った。ただし、増加のタイミングは従来よりも遅いことから、今後の推移も感染第4波とは異なるものとなる可能性がある。仮に緩やかな増加に抑えられれば、それはワクチンの効果とも考えられるため、今後の推移が注目される。

【図表1】 新型コロナの新規感染者数の推移
 (人) (人口10万人当たり・過去7日間合計)



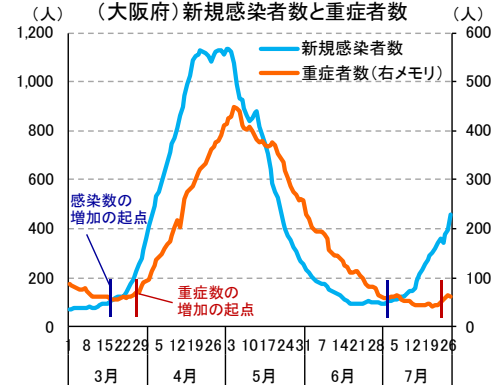
(出所) 東京都、大阪府ホームページ

【図表2】 (大阪府) 新型コロナの新規感染者数
 (人) (主な年齢層別・7日間平均)



(出所) 大阪府ホームページ

【図表3】 (大阪府) 新規感染者数と重症者数 (人)



(出所) 大阪府ホームページ ※感染者数は7日間平均

※本稿は情報提供が目的であり、商品取引を勧誘するものではありません。また、本稿は当社が信頼できると判断した各種データに基づき作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。なお、本稿に記載された内容は執筆時点のものであり、今後予告なしに変更されることがあります。

●今後の注目点

現在の全体的な感染状況でいえば、すでに新規感染者数はステージ 4 に入っており、緊急事態宣言の発出も視野に入る。ただし、PCR 検査の陽性率や、確保病床の利用率といった他の指標は、まだその段階には達していない。そういった中で、今後注目されるのは重症者数および、重症者用の病床利用率ということになる。

先に述べたように、感染第 4 波と同様に、急激に重症者数が増加するのか。それとも増加ペースは緩やかなものとなるのか。もちろん予断は許されないが、仮に後者となれば、緊急事態宣言に対する判断が左右されることもありうる。ワクチンによる効果の顕在化も含め、今後の推移が注目されよう。

本件照会先：大阪本社 荒木秀之
TEL：06-6258-8805 mail：hd-araki@rri.co.jp

※本稿は情報提供が目的であり、商品取引を勧誘するものではありません。また、本稿は当社が信頼できると判断した各種データに基づき作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。なお、本稿に記載された内容は執筆時点のものであり、今後予告なしに変更されることがあります。